

<活動報告：社会課題研究>

◆企業は「社会課題リスト」をどう使うのか？NTTデータと三菱食品の先行事例(10/30)

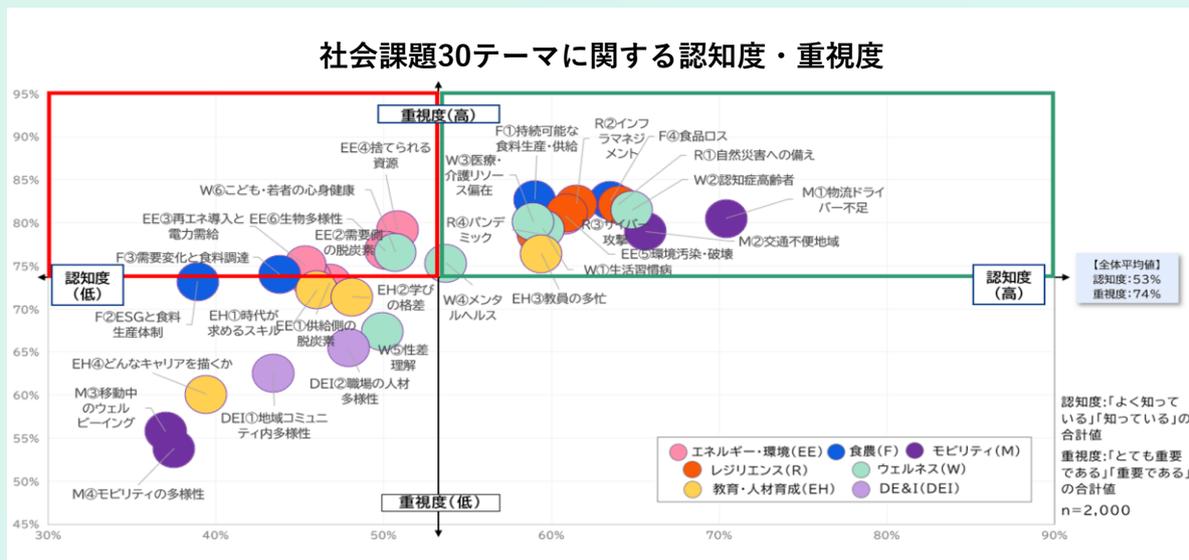
「社会課題リスト」を実務に活用されているNTTデータ、三菱食品の両社に、社会課題を起点にした新規事業の立ち上げや“共創”の実践知についてお聞きしました。NTTデータでは社会課題リストを課題選定に活用し「仕事と介護の両立」という企業と従業員双方の喫緊の課題解決に資する新事業を創出しています。三菱食品では食品・環境課題分析に社会課題リストを活用し、展示会でサプライチェーン全体と課題を共有された事例をご紹介いただきました。「社会課題リスト」は、その網羅性とビジネス視点という点で、課題設定やアイデア創出の支援ツールとして、企業間共創や新規事業を検討する際の一助となっている先行事例です。

三菱総合研究所公式note：<https://note.mri.co.jp/n/n134e6101da95>

◆社会課題意識に関する調査結果報告（速報）（11/5）

「社会課題リスト」で取り上げている、社会課題7領域30テーマに関する認知度と重視度を把握するため、意識調査をしました。調査結果（速報）からは、身近で喫緊の課題は強く認識される一方、DE&Iやキャリア形成など、未来（ゴール）から逆算して取り組む“バックキャスト的課題”は低調であるなど、各テーマの認知度・重視度に差があることが確認されました。さらに、若年層の回答結果からは、啓発による変化の可能性が確認され、今後の重点的な働きかけの方向性が明らかになりました。

三菱総合研究所ニュースリリース：<https://www.mri.co.jp/news/press/20251105.html>



◆MiRalフォーラムに社会課題リストブース出展(11/27)

三菱総合研究所では、あるべき未来を考え、豊かで持続可能な社会を共創していくきっかけの場として、GXをテーマに「MiRalフォーラム」を開催し、200名超のクライアントのトップ層の方に来場いただきました。会場内に「社会課題リスト2025」の展示ブースを設置。同リストの特徴や制作するにあたってのポイント、企業などで同リストが具体的にどのように活用されているのかなどについて説明しました。

◆出前社会課題ディスカッション（於：島津製作所）（12/23）

会員企業を訪問し、社会課題リスト2025を題材として社会課題起点のビジネスアイデアを検討するイベント「出前社会課題ディスカッション」を開催しました。

初回となる今回の開催場所は島津製作所本社にある共創スペース「KYOLABS」。

20名を超える同社の皆さまを対象に、社会課題リストの解説、共創ビジネスの具体的事例、ビジネス化する際のポイントなどの話題提供をしたのちに、参加者には個人ワークとして実際に課題起点のビジネスアイデアを考えていただきました。

個人ワーク終了後は、グループごとにそのアイデアを共有。課題解決につながるのか、より効果的なビジネスとするにはどうしたらよいか、など多様な視点からディスカッションをしました。

本取組は、今後も様々な会員向けに展開していく予定です。

【募集】一緒に「出前社会課題ディスカッション」を開催しませんか？

- ▶ 社会課題を網羅的に知りたい／掘り下げたい！
- ▶ 自社で取組むべき課題の方向性を検討したい！
- ▶ 社会課題起点のビジネスを検討したい！ など関心がある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：icf-inq@ml.mri.co.jp（未来共創イニシアティブ 推進オフィス）



出前社会課題ディスカッションの様子@島津製作所 共創スペース「KYOLABS」

<活動報告：セミナー>

◆日本CDR協議会活動報告

◇COP30報告会(11/27)

日本CDR協議会会員限定のイベントとして、ブラジル・ベレンで開催されたCOP30に参加した三菱総合研究所の研究者による報告会を開催しました。報告会では主要な合意内容や交渉のトレンドを解説、共有するとともに、現地の印象や会場火災の体験などについて語りました。

開催レポートを日本CDR協議会ウェブサイトに掲載していますのでぜひご覧ください。

<https://icf.mri.co.jp/j-cdr/information/cop30eventreport/>

◇DeCarbon Tokyo 2025 サイドイベント(12/2)

世界中のCDRに関するキープレイヤーが集まり、様々なトピックでのキーノート・パネルセッションが行われた「DeCarbon Tokyo 2025」にあわせ、日本CDR協議会主催のサイドイベントをICF会員である日本郵船本店にて開催しました。サイドイベントは2部構成とし、前半は日本国内のCDR関連事業者よりCDRの手法別の基本情報の共有会を行い、後半はDeCarbon Tokyo 2025に合わせて来日されている海外のサプライヤーやレジストリーなど、約30名の方とのネットワーキングをしました。

開催レポートを日本CDR協議会ウェブサイトに掲載していますのでぜひご覧ください。

<https://icf.mri.co.jp/j-cdr/information/decorbontokyo2025-サイドイベント/>

◆第1回、第2回フュージョンエネルギー（核融合）勉強会(12/12、12/19)

近年、核融合は再び世界的に注目され、日本でも産業・政策の両面で動きが加速しています。こうした背景を踏まえ、ICF推進オフィスでは、核融合産業の理解促進を通じた産業活性化を目的とした勉強会を開催しました。第1回（12/12）は、三菱総合研究所のフュージョン事業チーム(※)から核融合の基礎について解説したのち、J-Fusion（一般社団法人フュージョンエネルギー産業協議会）から「フュージョンエネルギー白書」の内容を紹介いただきました。第2回（12/19）は、核融合炉開発に不可欠な国内外のプロジェクトに携わるキープレイヤーが登壇。国際的な大型計画であるITER、日本のスタートアップが主導する球状トカマク方式のFASTプロジェクト、ヘリカル方式を採用するHelix Programなど、最前線の取り組みについて直接意見交換が行われました。第1回、第2回を通じて延べ600名程の参加者を迎えることができました。開催速報をICFウェブサイトに掲載しています。

開催速報：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-25395/>

第3回の核融合勉強会は核融合産業で活躍するメーカーなど民間企業をお招きして、事業戦略上の核融合の位置づけや自社技術の活かし方などを深掘りします。（2026年3月の開催を予定）

(※)三菱総合研究所は社内横断チーム「フュージョン事業チーム」を結成して核融合に取り組んでいます。

(2025/11/6 三菱総合研究所ニュースリリース：内閣府「令和7年度 フュージョンエネルギーの社会実装促進に向けた調査」を受託)

<https://www.mri.co.jp/news/press/20251106.html>

◆第11回 ICFオンライン座談会 大学に飛び込め ～一緒に未来社会のイノベーションの種を発掘する～(12/17)

東京科学大学特任教授 真尾淑子氏をお招きし「世界を変える」大学発スタートアップの継続的な創出・支援を目指す「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」の取り組みや課題を語っていただきました。GTIEは大学発スタートアップの成長には、技術・市場・経営者人材の3要素すべて揃うことが重要と考えている一方、大学内には経営人材や市場開発力が不足していることを課題として挙げられました。特にグローバル市場を視野に入れた展開が求められるディープテック領域のスタートアップについては、ビジネスモデル構築など支援強化の必要性を強調されました。また、ICF推進オフィスとのクロストークでは、参加者との質疑応答も交えて、大学と企業間の協働における研究と事業化の乖離、ミスコミュニケーションの問題、研究者がビジネス理解を深める必要性などを議論しました。

最後に、GTIEの未来産業創出プログラム「GTIE Future Core Lab」の構想が紹介され、企業人材と大学研究者の連携を通じて新たなイノベーションを生む仕組みが提案されました。企業人材が大学チームに参加して視点やネットワークを広げる意義や、企業・大学双方にとってのメリットも期待されます。

開催レポートとアーカイブ動画（会員限定）は、こちらからご覧ください。

開催レポート：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-25496/>

アーカイブ動画：<https://icf.mri.co.jp/limited/field/field-25502/>

<情報発信：社会課題解決に挑むディープテックコラム公開>

◆ロボットが変える生活空間と都市の未来 ～「手のひら」と「やわらかさ」が実装のカギに～(12/2)

社会課題の解決には、革新的な技術が不可欠です。ICFでは、社会実装の観点からディープテックに注目し、先端技術の最新動向や今後の可能性、課題解決に向けたディープテックスタートアップの具体的な取り組みについて連載コラムとして紹介していきます。

第1回は「ロボット」。入社前のコンビニで、ロボットに淹れてもらったカフェラテを受け取る――そんな日常が目前に迫っているかもしれません。AIや遠隔操作技術を融合した次世代ロボットは、少子高齢化や人手不足といった深刻な課題に対し、新しい解決策を提示しています。精密動作を実現するロボットハンドや、静音性と安全性を兼ね備えたソフトロボットなど、「人とともに働く」ロボットの実装をめざすスタートアップが続々と登場しています。次回以降はロボット以外のディープテック領域も取り上げます。どうぞご期待ください。



<https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20251202.html>

<ICF会員>

10/1～12/31に新規入会された会員数は、8社・団体で、12月末時点での会員数は、636社・団体となりました。

(新たにご入会された会員)

【企業】

◇株式会社IHI <https://www.ihico.jp>

◇株式会社NTTアーバンソリューションズ総合研究所 <https://www.ntt-us.com/usri>

◇東京海上日動火災保険株式会社 <https://www.tokiomarine-nichido.co.jp>

【スタートアップ】

◇株式会社COMMONGROUND (テクノロジー) <https://cmmngd.com>

◇ハノン・ケアシステム株式会社 (ウェルネス) <https://hokantokyo.jp>

◇株式会社peaceful (ウェルネス) <https://www.peaceful-inc.com>

【賛助】

◇国立大学法人佐賀大学 <https://www.saga-u.ac.jp>

◇豊田工業大学 <https://www.toyota-ti.ac.jp>

<2026年1月以降の活動予定>

◆望まない孤独・孤立対策イベント【第2回】(2/13)

2025年5月「孤独・孤立対策強化月間」に合わせて、「望まない孤独のない社会の実現に向けて」と題したイベントを開催しました。今回はその第2弾として、孤独・孤立への対応に取り組む自治体や企業を実施している施策をご紹介します。本イベントでは、「望まない孤独・孤立」の緩和や解消を目的として行われている取り組みに加え、地域コミュニティの活性化や社会的つながりを構築する施策が結果として孤独・孤立対策として機能しているケースについても、具体例を通じて取り上げます。

また、それぞれの取り組みの背景や狙い、成果、進める中で明らかになった課題についても共有し、望まない孤独・孤立問題の理解を深める機会とします。

プログラムの詳細並びに参加申込は下記URLをご覧ください。

<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-25329/>

◆地方創生イベント(3/13)

「わたし主語で地方創生、地域活性化を考える ～中央と地方の二項対立を超えて～」と題してイベントを開催します。人手不足の深刻化やインフラの老朽化への対応など、様々な課題に直面するなかで、存続の在り方も含めて、これまで以上に地に足の着いた、持続可能な地域創生、地域活性化の検討、取り組みが求められています。地方・地域がなにをすべきかの前提として重要なのは、「私がこれからどんな暮らしをしたいのか」という前向きな動機であり、自律的な豊かさの追求と言えます。本イベントでは、自治体首長、アカデミア、起業家など、それぞれの立場で地方・地域の課題解決に向き合ってきた有識者の方をお迎えし、新たな視点、アプローチで官民共創による地方創生、地域活性化について考えます。

プログラムの詳細並びに参加申込は下記URLをご覧ください。

<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-25332/>